

美しく、強く、しなやかな
“ふじのくに” づくり計画

(静岡県国土強靱化地域計画)

平成 27 年 4 月 16 日

【抜粋版 (H27.8.26)】

(5) **基幹的交通ネットワークの機能確保、代替性確保及び輸送モード相互の連携**

本県には、東海道新幹線や東名高速道路、新東名高速道路など、国土の大動脈となる基幹的交通インフラが通っており、津波による被害が想定される沿岸部や、斜面崩壊が懸念される静岡市興津地区、大きな断層変位があった場合には大きな影響を及ぼすこととなる富士川河口断層帯などでは、基幹的交通インフラが機能停止し、復旧までに相当な期間を要する事態が予想される。

これらの基幹的交通インフラは、大規模災害時における救助・救急活動や支援物資の輸送等の機能を担う「命の道」となるとともに、我が国の経済活動を支える非常に重要なものであることから、その安全性の確保、被災時の早期復旧は、本県のみならず、国として重要な課題である。

このため、「命の道」となる新東名高速道路、中部横断自動車道、三遠南信自動車道、伊豆縦貫自動車道の未整備区間等の整備を促進するとともに、緊急輸送路等の整備・耐震対策及びその周辺対策（治水・治山・海岸・砂防等の対策）を推進する必要がある。

また、災害時においては、陸・海・空の各輸送モードそれぞれの代替性の確保だけでなく、輸送モード相互の連携、代替性の確保を図る必要がある。

特に、富士山静岡空港は、重要港湾である御前崎港に近く、さらに、直下を東海道新幹線が通過しており、これらと結節することにより、空路、陸路、海路の多様な輸送モードで結ばれ、**応援部隊等の受入れ等の拠点となる「大規模な広域防災拠点」として防災機能の向上が図られる。**また、富士山が噴火した場合、火山灰は偏西風により東へ向かう可能性が高く、首都圏の空港よりも降灰による影響が少ない富士山静岡空港に、**首都圏空港の補完が期待できることから、富士山静岡空港と結節する新幹線新駅の実現を図る必要がある。**

○ 防災訓練の実施、避難計画の検証と住民への周知

富士山及び伊豆東部火山群について、関係自治体及び関係機関等で構成する協議会において、訓練による避難計画の検証や連携体制の確認等を行うとともに、避難計画の住民への周知に努める必要がある。

【富士山火山広域避難計画の策定 策定済み：H25】

【伊豆東部火山群避難計画の策定 策定中】

○ 富士山静岡空港と結節した新幹線新駅の実現

富士山が噴火した場合、火山灰は偏西風により東へ向かう可能性が高く、首都圏の空港よりも降灰による影響が少ない富士山静岡空港に、首都圏空港の補完が期待できる。富士山静岡空港の大規模な広域防災拠点としての機能強化のみならず、首都圏の防災機能強化を進める上でも、富士山静岡空港と結節する新幹線新駅の設置が必要である。

1-5 大規模な土砂災害による多数の死傷者の発生のみならず、後年度にわたり国土の脆弱性が高まる事態

- 【土砂災害、地震】
- ・ 死傷者の発生
 - ・ 建物の損壊、農地・森林の荒廃
 - ・ 交通ネットワークの機能停止

○ 地すべり防止施設、砂防設備、急傾斜地崩壊防止施設の整備

従来からの施設整備は、同時多発的に発生する土砂災害に対しても有効であることから、優先度を設け着実に進めていく必要がある。

また、想定している規模以上の土砂災害に対して、対応が困難となり人的被害が発生するおそれがあるため、被害を軽減する予測及び対策の手法を確立するよう国へ働きかけていく必要がある。

また、静岡市の由比地区においては、国道1号、東名高速道路、JR東海道本線といった東西の重要交通網が集中していることから、大規模自然災害に対する安全度の向上が早期に図られるよう国等に働きかけていく必要がある。

【土砂災害から保全される人家戸数 3.2万戸：H25（全国108万戸：H24）】

【重要交通網に係る土砂災害対策実施率 50%：H25（全国47%：H24）】

【地すべり防止施設の整備が必要な箇所（368箇所）の整備率 46.7%：H25】

【砂防設備の整備が必要な土石流危険渓流（2,031渓流）の整備率 22.6%：H25】